



教育学部の高木由美子教授が 2025年度日本化学会50回化学教育賞を受賞



3月18日、教育学部の高木由美子教授が、日本大学理工学部船橋キャンパスで開催された日本化学会第106春季年会(2026)で化学教育賞を受賞しました。日本化学会は1878年に設立された2.3万人の会員を擁する日本最大の化学学会です。学会のさらなる発展を目指し、毎年会員の業績について厳正な選考が行われ、日本化学会賞、学術賞、進歩賞など10にわたる賞が決定されます。化学教育賞はそのうちの1つで、国際的または全国的な視野で化学教育に顕著な功績を挙げた会員に贈られます。高木教授は、第49回全国高等学校総合文化祭香川大会自然科学部門審査委員長を務めたほか、先駆的な化学教材の開発とその教材を用いた化学啓発活動を、インターネットを介して全国的さらには国際的に展開してきた実績が認められました。



教育学部の寺島弘城講師が 令和7年度香川県文化芸術新人賞に選出



3月18日、教育学部の寺島弘城講師が令和7年度香川県文化芸術新人賞に選出されました。本賞は、将来にわたり香川県の文化芸術の発展に寄与することが期待される若手芸術家(40歳未満)を顕彰するもので、2008年度より実施されています。寺島講師は、坂出高等学校を経て、2024年度に東京藝術大学大学院博士後期課程を修了。同年には国内最高峰のコンクールの一つである日本音楽コンクール声楽部門(歌曲)において第4位入賞を果たすなど、数々のコンクールで優秀な成績を収めてきました。現在は日本各地で精力的な演奏活動を展開する一方、香川県内においても瀬戸フィルハーモニー交響楽団をはじめとする主要な音楽団体と共演を重ねるなど、地域文化の振興にも積極的に貢献しています。3月25日には、上田学長に受賞報告を行いました。



東京藝術大学×香川大学「ぐんだらけ」が 「東かがわ市未来アワード」を受賞



3月7日、まちづくりプロジェクト「ぐんだらけ」が「東かがわ市未来アワード地域活性化・地域貢献部門」を受賞し、上村東かがわ市長より表彰状を授与されました。本アワードは、「東かがわ市や地域の魅力向上のために活動し、その取組を通じて新たな価値を見出している事業者・団体・市民を表彰し、応援すること」を目的として東かがわ市が実施している表彰制度です。表彰式にはプロジェクトを代表し、寛善行イノベーションデザイン研究所長が出席しました。東京藝大と香川大は、文部科学省及び日本学術振興会による「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に連携して取り組んでおり、プロジェクトを東かがわ市引田地区で展開しています。今回の受賞を励みに、今後も地域の発展に向けて取り組んでまいります。



平野敏範客員研究員がGMO Cybersecurity Awards 2026にて サイバー犯罪対策功労賞を受賞



3月5日、情報化推進統合拠点サイバーセキュリティセンター平野敏範客員研究員がサイバーセキュリティ業界の発展に貢献した個人・団体を称える「GMO Cybersecurity Awards 2026」にてサイバー犯罪対策功労賞を受賞しました。国立大学の職員として初の受賞となる快挙です。近年、警察官を装ったオレオレ詐欺や、SNS型投資・ロマンス詐欺など、特殊詐欺の手口がますます巧妙化し、深刻な被害が相次いでいます。こうした被害を未然に防ぐため、平野客員研究員は大阪府警察本部・大阪府立都島工業高校と連携して、LINE上で詐欺の手口を“仮想体験”できる新たな防犯ツールを開発し、受賞に至りました。現在、このツールは全国の20を超える都道府県警察にて活用されており利用者数はのべ3万人を超えています。

香川大学防犯パトロール隊が 防犯CSRマイスター表彰



3月25日、学生サークル・防犯パトロール隊が全国防犯CSR推進会議から防犯CSRマイスター表彰を受け、東京都で行われた授賞式に学生代表者が参加しました。本表彰は安全安心な地域づくりに積極的な関与をし、防犯CSR活動の推進に大きく寄与した個人などを表彰する取組で、学生団体として初の受賞です。防犯パトロール隊は、防犯ボランティアの減少・高齢化を受け、若い世代の防犯ボランティア活動の活性化を目指し、地域のパトロールなどを毎週行い、定期的に県内の小学校などで防犯アプリを活用した防犯教室も実施しています。さらに、香川県警察への協力や、他のボランティア団体との連携・協働も行い、活動の幅を広げてきています。受賞を受け、5月19日には学長報告を行いました。



法学部の八木陽奈子さんが 「未来自治体全国大会2026」で優勝



3月21日、法学部2年の八木陽奈子さんが所属する「チームLINK LAB」が、香川大会、全国準決勝大会を勝ち抜いて、4チームが参加する全国決勝大会「未来自治体全国大会2026」に進出し、参加した若者約300人が各チームのプレゼンテーションとパネルディスカッションを採点した結果、見事優勝に輝きました。本大会は、NPO法人ドットジェイビーが主催し、総務省や文部科学省、厚生労働省などが後援して開催された自治体デザインコンテストで、若者が30年後の自分たちのまちのビジョンを思い描き、そのビジョンを実現するための10年後の政策と現実的な予算案を考えるというものです。なお、本受賞について4月15日に池田県知事、5月20日に上田学長を訪問し、報告を行いました。



創発科学研究科の渡辺悠斗さんが 学長表彰



3月9日、創発科学研究科博士前期課程1年の渡辺悠斗さんが学長表彰されました。本表彰は、学術研究活動や課外活動、社会活動において優秀な功績を収めた学生・学生団体を称えるものです。渡辺さんは、喉頭癌などにより声帯を摘出し発声が困難となった方のための新しい発声インターフェースの開発を行い、ふくしま医療機器開発支援センター主催「第6回医療創生アイデアコンテスト」において、最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞。また、2025年度「GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD」入賞と、医療とデザインを横断した新たな開発の成果が高く評価され、学術研究活動において特に顕著な業績を挙げた学生として、今回の表彰に至りました。今後のさらなる活躍が期待されます。

